

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

豊かな発想・表現＜創造性の芽生えを育む＞／社会福祉法人新栄会 オルト保育園

子どもたちは今、何に興味を深めていますか？
今、園ではどのような遊びが繰り広げられていますか？
今回ご紹介する事例は、前年度栽培した花の種を引き継いだ5歳児の遊びの展開です。子どもたちの気付きや疑問が、新たな発想や表現に結び付いています。



● マリーゴールドの不思議／5歳児

4歳時に、花や野菜を栽培したり、誕生会の飾りや遊びに使ったりする活動を重ねた子どもたちが5歳児になった。昨年の5歳児から引き継いだマリーゴールドの種をまき、育てていた。



✦ 場面1「マリーゴールドはバナナの匂い!？」

マリーゴールドは、夏の暑さにも負けず次々と花を咲かせ、関心は他のクラスにも及んでいた。

「これ、何？」窓から2歳児の声がして、5歳児「マリーゴールド」と教えて一輪摘んで渡すと、匂いを嗅いで「バナナの匂いがする」と言う。
マリーゴールドは各クラスの食卓に彩りを添えた。



✦ 場面2「種に模様がある!」

Aちゃんが「枯れてるよ!」と言い、花びらを採ってみると種が出てきた。
Bちゃんが「あっ!これ、マリーゴールドの種」と言うと、Aちゃんが「お花が枯れて、またお花になるんだよ」と言う。Bちゃんは「種になるって面白いね。新しい花ができるね。お花みたい」と種を取り出した形が花のようであったことを発見して言う。夢中で種を集め始める。Bちゃんが種をじっと見ている。「種に模様がある!!下が黒で上が白」と気付く。側のCちゃんものぞきこんで確かめる。



✦ 場面3「マリーゴールドで染めるには?」

昨年染色をした体験を思い出した子どもたちは、保育者が集めておいた様々な白い素材に気付き、「色付けるんだから白でいいんじゃない?」「毛糸は染まらないんじゃない?」「雑巾も染めるの?水で洗ったら色なくなっちゃうよ」と、染まり具合を予想する。

Bちゃんは「花をすりつぶして、色付けしたら?布と良く混ぜるの。色がついたら乾かす」と自信ありげに言う。

Aちゃんは「マリーゴールドを石でゴキゴキして、色を付ける。ゴキゴキしてつぶして色が出たら塗る」と、花をつぶして絵具

のように筆を使い布に塗るという方法を発案する。
保育者は煮出して布を入れ染める方法を話す。



✦ 気付いたこと、発見したこと

- 摘みたての花は「ヌメヌメ」している。数日たった花は「カサカサ」している。時間が経つと乾燥して状態が変わる。
- 花びらを採っていると、マリーゴールドの匂いが漂う。「ミカンの匂い」「臭い」など、匂いには子ども一人一人好みがある。
- つぼみと枯れた花は似ているが、つぼみは採らない。
- 強く引っ張ると根から抜けてしまうので、両手で採る。
- マリーゴールドの花には、花の色のウンチをする小さな虫がいる。

✦ 考察

子どもたちの考えは、過去の経験に基づくものであることがうかがえた。しかし保育者のように経験をなぞるものではなく、独自の方法として新たに発案されたものであった。保育者の伝えた方法は一つの提案として受け止め、自分なりのやり方を堂々と提案する姿は自信に満ちて頼もしい限りであった。

花びらを取る作業をしながら、子どもたちは様々な発見をした。カリキュラムとしてのねらいがあったわけではなく、子ども自身が興味をもち発見したことであった。花や虫には関心のなかった子どもたちも、この発見の喜びを共に味わうことができた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」